

## 典型的な里地里山の選定手順

### ①候補地となる里地里山を特定する

里地里山の定義と特性（里地里山保全活用行動計画1.（1））を参考にして、地域内で里地里山として扱う場所等を候補地として特定する。

#### 里地里山の定義と特性（里地里山保全活用行動計画1.（1））

里地里山は、集落を取り巻く農地、ため池、二次林と人工林、草原などで構成される地域であり、相対的に自然性の高い奥山自然地域と人間活動が集中する都市地域との中間に位置しています。里地里山の環境は、長い歴史の中でさまざまな人間の働きかけを通じて形成され、動的・モザイク的な土地利用、循環型資源利用が行われてきた結果、二次的自然に特有の生物相・生態系が成立し、多様な生態系サービスを楽しみつつ自然と共生する豊かな生活文化が形成されてきました。

### ②「選定の視点」を定める

地域の自然的・社会的特性を踏まえ、地域の里地里山を保全し活用する上で、里地里山にどのような価値を認め、守っていくのかを考えて、地域の施策や状況に合わせた「選定の視点」を検討し、定める。

例えば、「環境共生型農林業」、「伝統的生活文化や景観」、「環境教育等の場」、「生物多様性保全」など、どのような視点で選定するかを検討し、地域にあてはまるものを定める。

### ③具体的な「選定の基準」を定める

実際に里地里山にあてはめて評価するために、上述②で定めた「選定の視点」を具体化して、地域に独自の選定の基準を定める。

例えば、視点ごとに、価値的側面（里地里山の環境等を価値あるものとして保全するという側面）と活用的側面（里地里山を残していくために産業等により活用するという側面）のどちらか、もしくは両方に着眼して、その地域の里地里山を典型的に示す要素や代表する要素、或いは守りたい要素などを検討し、それらの要素を含む里地里山が選ばれるように基準を定める。

### ④候補地と基準を表現するデータとの重ね合わせ

上述③で定めた基準を表現するデータを候補地と重ね合わせ、最終候補地（データをもとにして選定基準を満たす里地里山を明確な区域とともに特定したもの）を特定する。

### ⑤生態系ネットワークに配慮する

上述④で特定した最終候補地について、可能であれば、生態系ネットワークに配慮して区域等を調整する。その際は、「指標とする生態系や種」を定め、それに即した「空間スケール」を設け、「空間配置」を検討する。なお、既存の地域がある場合等においては、生態系ネットワークを配慮せず、設定することもあり得る。

なお、配慮にあたっての考え方、手順及び参考事例については、次項「(3) 典型的な

里地里山の選定における生態系ネットワークの配慮について」を参照されたい。

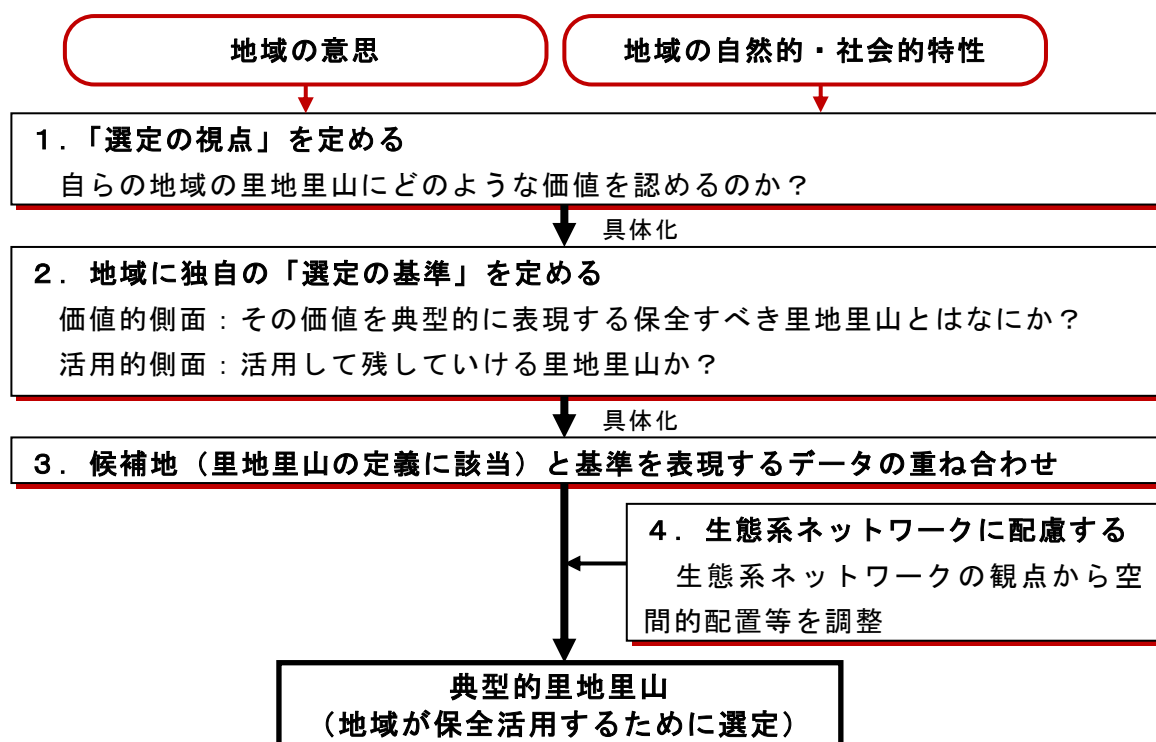
### ⑥その他考慮する事項

上位計画：前提とすべき上位計画がある場合、整合性を保ちながら選定する。

地域バランス：取組への参加を促すことも目的の一つであり、地域的な配分への配慮も重要である。

### ⑦最終決定

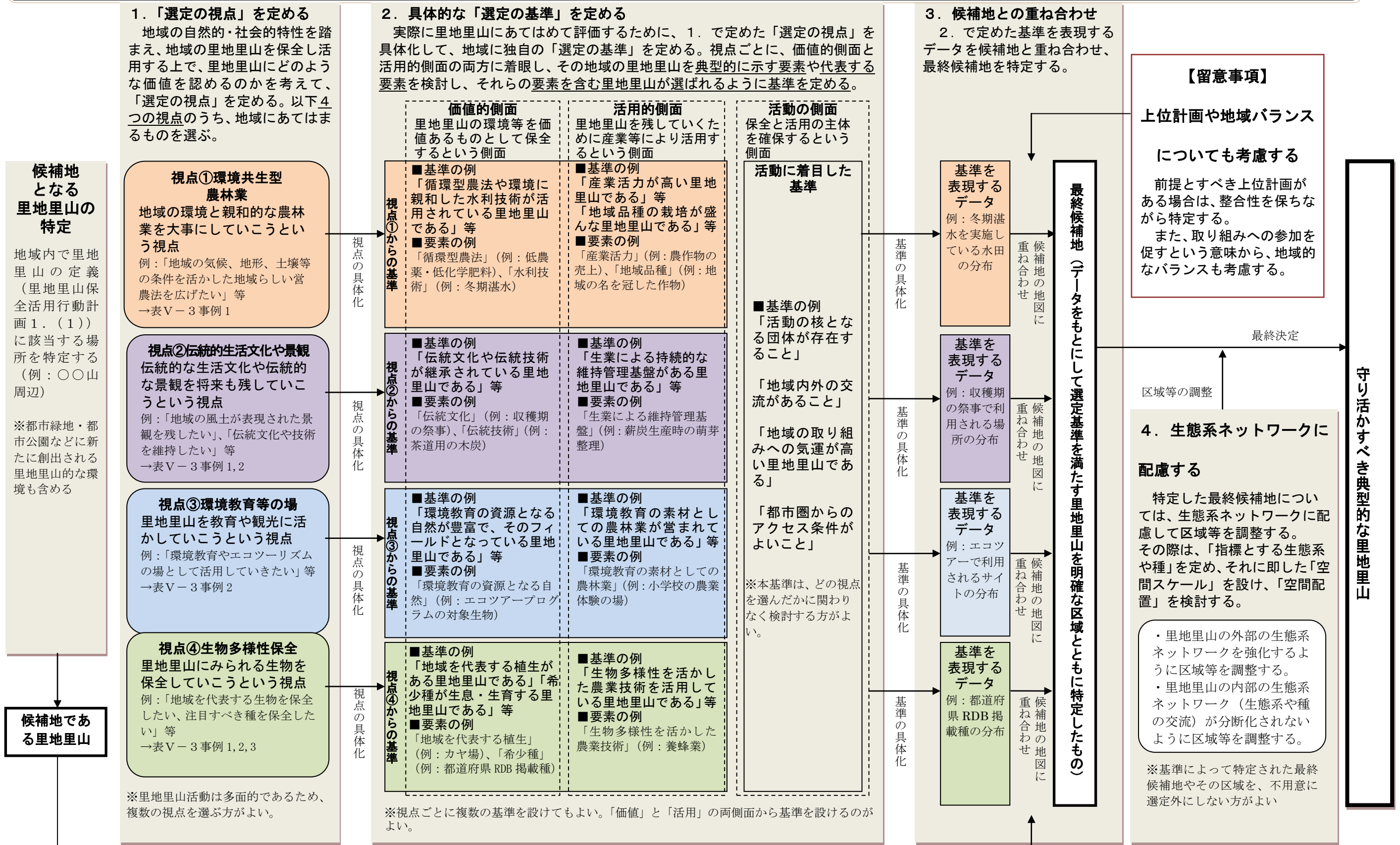
上述⑤と⑥を考慮したのち、最終的に「典型的な里地里山」の区域を決定する。



図V-2 典型的な里地里山の選定手順

注：地域が独自に検討して定めた手順により選定を進めることを期待するところであり、必ずしもこの手順に沿う必要はない。

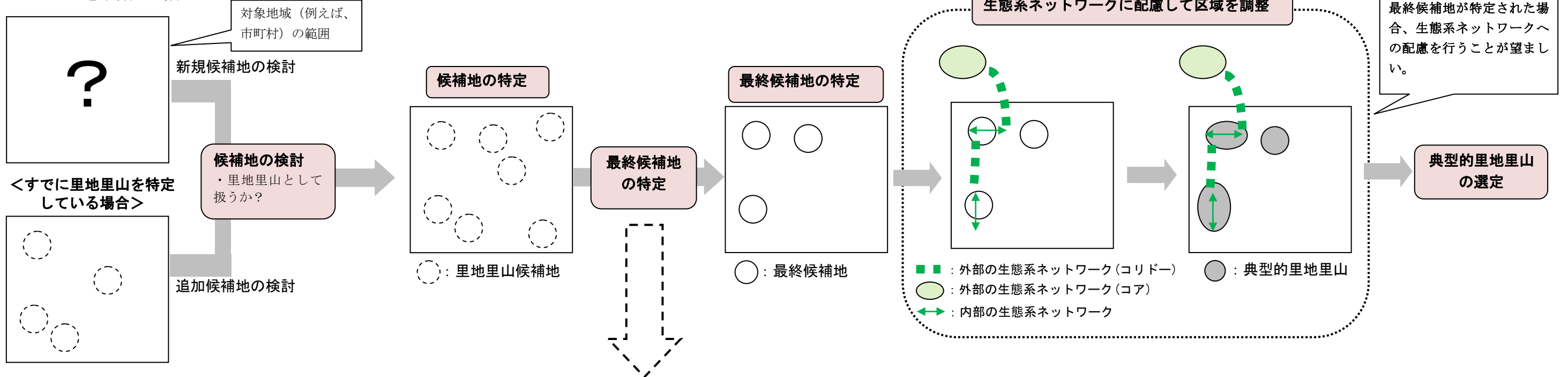
資料の目的：地域（都道府県・市町村等）が主体となって、その地域で守り活かすべき「典型的な里地里山」を選定し、選定した里地里山の保全活動を推進していただくために、参考となる考え方・手順などについて整理したものです。例えば、1)新たに活動を行う里地里山をリストアップしたいとき、2)複数の活動候補地の中で、典型性や代表性を比較したいとき、3)既に活動が行われている地点やその周辺で、新たな保全目標や活動内容を検討するときなどに、参考として活用していただくことを想定しています。



図V-3 各地域における典型的な里地里山の選定の手順（フロー）

この資料は選定手順の過程を示す参考例です。各自治体の施策や地域の状況に合わせて、より良い手順を検討し選定して下さい。また、表V-3の事例も参考にして下さい。

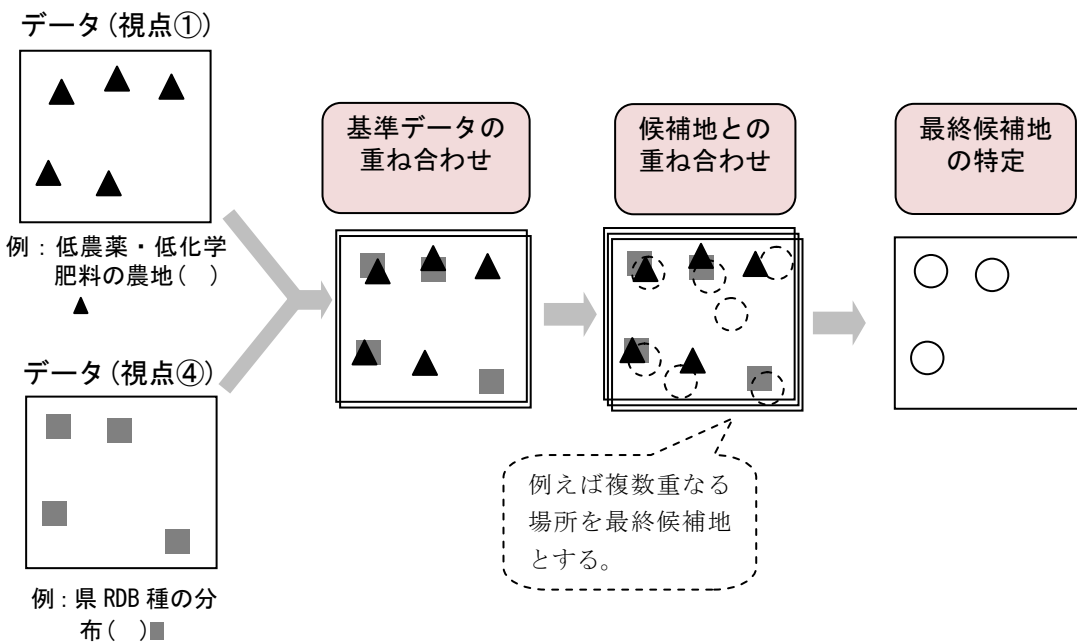
<里地里山を未特定の場合>



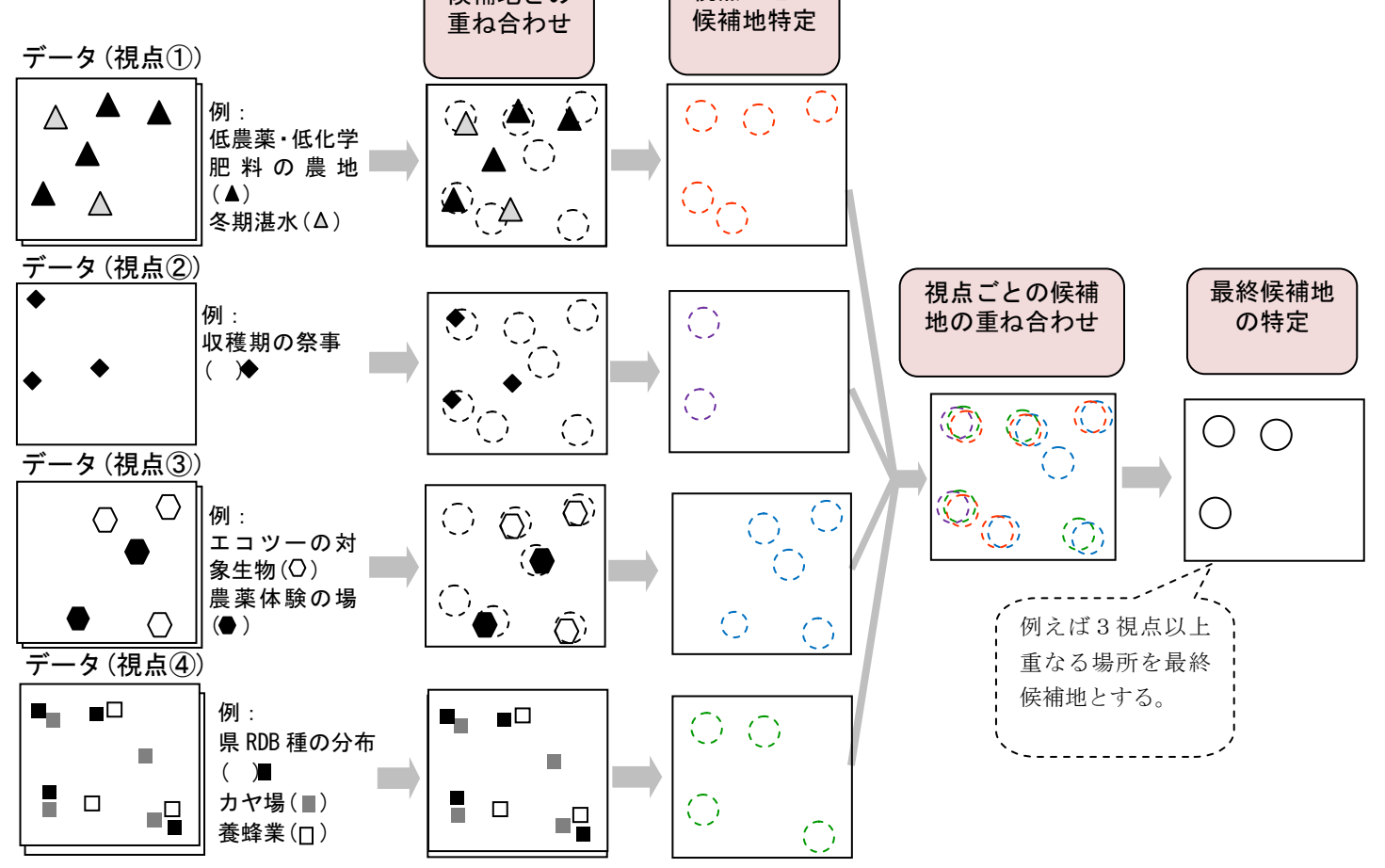
最終候補地の特定手順（例）

検討し決定した視点から、視点に沿った具体的な基準を定め、基準データと候補地との重ね合わせを行うことで、最終候補地を特定する。

<A. 基本パターン>



<B. 視点が多いパターン>



図V-4 典型的な里地里山の選定手順の例（イメージ図）